

鎌ケ谷市議会議員

芝田ひろみ



鎌ケ谷市議会議員 5 期目当選

主な公職歴

鎌ケ谷市議会議員 議会運営委員会委員長

予算審査特別委員会委員長

総務常任委員会委員（現）

柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合議員・監査委員（現）

ひとりひとりの心に寄り添って

鎌ケ谷市令和元年度決算を認定

健全財政を維持したが
12 年ぶりの厳しい決算

令和元年度鎌ケ谷市一般会計決算は、収入が、繰越金や市債の減少により前年度と比較し 0.1% 減の 358 億 6000 万円となり、支出が、幼児教育・保育の無償化実施に伴う経費の増加やローンの支払いの増加により、前年度と比較し 2.2% 増の 345 億 8900 万円であった。支出の増加は 2 年連続。

財政の健全度を表す全国一律の基準はいずれもクリアしており、鎌ケ谷市の令和元年度決算は健全な状態を維持している。

収入と支出の差額から翌年度に繰り越した事業費を差し引いた実質収支は 10 億 3100 万円の黒字だ。ただ、この黒字額は前年度から 9 億 5500 万円減少し、更に、福祉関係の給付金などの経常的な経費が市税などの収入に占める割合も 5 年連続で上昇しており、12 年ぶりに厳しい財政状況となった。

福祉関係の経費 18 年連続トップ
支出の 42.7% 占める

収入は、繰越金が前年より 7 億円の減額となったほか、収入の根幹をなす市税も 2600 万円の減額であった。

支出は、少子高齢化対策や障がい福祉サービスに要する経費、生活保護費など福祉に関する費用が増加し、総額で 147 億 6600 万円と支出全体の 42.7% を占めた。福祉関係の費用は 18 年連続で支出のトップとなっており、令和元年度決算では前年度から 7.7 ポイント増となり、今後も増加が見込まれる。

また、小中学校のエアコン整備や市庁舎の免震工事、新京成線の高架化、水害対策などの、まちづくりに必要な事業のローン返済がピークを迎えつつあり、32 億 8300 万円となった。支出全体の 9.5% ではあるが、前年度からは 8.8 ポイントの増となっており、令和 4 年度までは増加が続く見込み。

令和元年度実施事業(抜粋)	事業費(万円)
パスポート発行事務	8000
自立支援給付費	18億2200
子ども医療費	3億3900
生活保護費	23億1500
中小企業資金融資・利子補給事業	9700
新京成線高架化事業	3億9900
二和川の水害対策事業	2億9800
新鎌ケ谷西側地区都市計画道路整備	8700
消防団用消防自動車更新	2000
小中学校施設維持補修	7億5700
陸上競技場改修	5100

鎌ケ谷市の家計簿



一般会計決算の数値を 10 万分の 1 にして家計簿に例えてみました。単純な収支は 1 万 2710 円の黒字となりますが、翌月の支払いにまわす分を除くと、1 万 311 円の黒字です。引き続き医療などの支出が増加しています。

	1ヶ月の家計に例えると(円)	市の一般会計
収入	給与基本給	13万7744
	諸手当	15万742
	パート収入	1万5387
	臨時収入	228
	ローン借入	1万5897
	前月の残金	2万714
	貯金取り崩し	1万7885
	収入の合計	35万8597
支出	食費	5万6144
	医療費・養育費	8万8595
	ローン返済	3万2833
	生活雑費	4万5274
	家の修繕・手入れ	2,121
	町会費・サークル会費	3万4957
	貸付	1,433
	子どもへの仕送り	3万5475
	貯金	1万7518
	家の増改築・家財購入	3万1537
	台風・地震の修繕費	0
	支出の合計	34万5887
収支	収入 35万8597 - 支出 34万5887 = 1万2710	
支払い残(翌月へ繰越)	2399	黒字(実質収支) 1万311

来年度の収入 感染症の影響も懸念
ICT の活用などさらなる行財政改革

厳しい財政状況が顕在化してきた令和元年度決算だが、来年度は新型コロナウイルス感染症の影響で市税などの減少による収入減が懸念される。また、支出面では、さらなる少子高齢化の進展による福祉関係の費用や、市にとって必要な事業を行ったローンの支払いの増加や、水害対策としての河川整備などの都市基盤整備で多額の費用を必要とする事業への取り組みなどがあり、今後の行財政運営はかなり厳しくなることが想定される。

市では、厳しい財政状況を受けて、計画的かつ迅速に行財政改革を断行するとしている。職員自らが担うべき業務の範囲を見直すとともに、業務の徹底した自動化、省力化を図り、事務を効率化すること。加えて、ICT 技術の積極的な活用でより一層の行財政改革を推進する。

芝田ひろみの一般質問（令和2年9月会議）

保育所の整備について 第2期子ども・子育て支援事業計画

鎌ヶ谷市では、第1期の子ども・子育て支援事業計画の計画期間である平成27年度から令和元年度の5年間で、保育所4カ所、小規模保育事業所8カ所の整備を進めて合わせて定員482名を確保した。これにより、年度当初における待機児童ゼロを継続して達成してきた。本年度は令和6年度までの第2期計画が始まる。そこで、計画の実績を確認、評価し、第2期でも引き続き待機児童ゼロを実現できるように質問を行った。

第1期子ども・子育て支援事業計画
保育所・幼稚園利用者数の計画値と実績値

計画値と実績値の違いを検証すると、保育所では328人、率にすると23.5%上回った。これに対し、幼稚園では366人、率にして18.4%下回る結果となった。

差異が生じた理由について市では、国の政策などもあり、女性の社会進出が想定を超えて進んできたとの考えを示した。計画を上回る需要に対しては、計画の見直しを行い施設整備を推進してきた。

保育所・幼稚園利用者数(令和元年度末)					
第1期計画の計画値と実績値(人)					
	保育所				幼稚園
	0歳児	1～2歳児	3～5歳児	合計	3～5歳児
計画値 (H27年推計)	140	562	696	1398	1991
実績値 (R元年末実績)	322	616	788	1726	1625

第1期計画期間中の保育需要増加

第1期計画期間中に保育施設を整備し、市全体での定員を平成26年度末から令和元年度で54.7%増やしたにもかかわらず、年度末には多くの待機児童が発生し、整備量を大きく上回る需要があった。

この5年間の就学前児童数は平成27年度が5448人だったものが、令和元年度は4774人と674人も減少しているのに対して、保育所の利用者数は20.2%から30.5%と大きく増加している。

一方で、幼稚園の利用者は、この5年間は、3歳以上の対象者数のうち、72.7%から64.0%と減少している。この数値から保育所の需要が高まっていることがうかがえる。

ひろみの
視点

新型コロナウイルス感染症は、市の多くの事業に影響を及ぼしており、子育て関連の事業も多くが休止や中止、延期などを余儀なくされた。ただ、子ども達の健やかな成長や女性も活躍できる社会づくりの推進に向けて、子育て関連事業は、あらゆる工夫をしつつ、着実に進めて行く必要がある。

第2期計画では、保育所については令和6年度までに1カ所のみの整備となっている。これまでの利用率の伸びをみると、若干の不安を感じる。市では様々な取り組みをしつつ、令和4年度に予定している中間見直しの時点において、追加整備の実施も含めて検討するとの方針だ。毎年度の利用希望などを把握した上で、後手に回ることのないよう速やかな対応が望まれる。

新型コロナウイルス感染症対策事業
補正予算総額 10億3000万円

新型コロナウイルス感染症対策事業抜粋(円)	
出産給付金	72,575,000
中小企業経営支援金追加給付	170,000,000
小中学校ICT環境整備	276,752,000
避難所の感染防止対策	54,274,000
公共施設トイレの非接触化等	246,490,000
感染防止衣等の購入(消防)	52,636,000

国の第2次補正予算を活用した新型コロナウイルス感染症対策事業の補正予算総額10億3000万円が9月会議で可決された。

ご意見、ご要望をお聞かせください。

TEL/FAX

047-779-0884

E-mail

shibatahiromi@jcom.home.ne.jp

E-mail



Instagram



感染症対策事業は出産給付金、中小企業への経営支援給付金、小中学校ICT環境整備、公共施設のトイレへの非接触型手洗い器具設置などの81事業。

出産給付金事業は、国が実施した10万円の特別臨時給付金の対象外となった令和2年4月28日から令和3年4月1日までに生まれた子どもの保護者に子ども一人当たり10万円を給付する。

中小企業への経営支援給付金は、昨年同月比で売上が1/3以上減少した事業者には10万円を追加給付するもの。既に給付を受けている事業者には追加で10万円、今回新規に申請した事業者には20万円が給付される。



芝田ひろみ市政報告

10月30日(金) 10:00～11:30

きらり鎌ヶ谷市民会館 学習室1

◎9月会議のご報告 令和元年度末決算他